

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第13回)

**PROCEEDINGS OF THE 13th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1989)**

国文学研究資料館

NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 13th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
1989**

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

第13回

目 次

あいさつ 小山弘志 3

研究発表

江戸初期諸文献による男色史	Paul SCHALOW 13
杜甫の「春望」と芭蕉	曹元春 25
江戸時代の漢詩とリアリズム	Marguerite OYA 38
『春雨物語』「目ひとつの神」の世界	金玉姫 47
江戸文壇における『水滸伝』受容の形跡	胡凱 61
『里見八犬伝』の龍女たち	小谷野敦 69
夏目漱石の漢詩と小説とのかかわり —『三四郎』における「雲」—	曾秋桂 80
日本近代文学における西洋演劇受容 —森鷗外を中心に—	金子幸代 98

公開講演

戯作の作者・作者の戯作	Sumie JONES 113
春琴と佐助 —「読む」という事—	秦恒平 133

記 録

日程および研究集会の経過 151
参加者名簿 152
国際日本文学研究集会委員会名簿 155

あ い さ つ

小 山 弘 志

この集會も第13回になりました。おかげさまでほぼ形がきまってまいりました。主催者として皆様に御礼申し上げ、今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

今回は、お手もとのプログラムにございますように8人の方に発表をお願いすることにいたしました。これは、この集會に関する委員会を設けておりまして、そこで決めたことでございます。この委員会には、館外の方にも何人か加わっていただいております。その委員をご紹介致しますと、委員長が青山学院大学の池田重先生、以下五十音順に、清泉女子大学のアラン・ターニー先生、東京大学の芳賀徹先生、国学院大学の講師でいらっしゃいます長谷川泉先生、国際基督教大学の福田秀一先生でございます。

これらの方々にお集り願ひまして、ご審議頂き、発表者を決めるということをしております。実は、さきごろ委員長の池田重先生はなくなられました。まことに残念なことでございました。それで、明年3月まで長谷川泉先生に委員長をお願いすることにいたしました。この集會のプログラムの決定は、池田先生ご在世の時のことでございます。

応募が10件あり、そのうちから7件を選びました。そして、その7件の論題との関連で、別に二人の方に発表をお願いいたしまして、9件のご発表を用意いたしました。ただ、中国からご参加予定の方が、プログラムを作る直前に、ビザの関係などでおいでになれない旨のご連絡があり、それをのぞきました結果、8件のご発表となった次第でございます。

プログラムをご覧になればおわかりになりますように、発表の内容は大変色とりどりでございます。それらを、本日は二つ、明日の午前の一つと、三つの組に分け、それぞれに座長をお願いして進めてまいることいたします。今回

は、国内のいわば普通の国文学科ご出身の方の発表が少のうございまして、比較文学関係の方、外国人で日本文学を勉強なさっている方、そういう方々が主になっております。これも一つの姿かと存じます。

明日の午後は公開講演をお願いすることになっております。講演をお願いする先生は、さきほど申しました委員会で考えていただいたのですが、インディアナ大学のスミエ・ジョーンズ先生と作家の秦恒平先生とでございます。この公開講演会には、当館におみえになっているゲストプロフェッサーに講演をお願いするのが通例でございますが、本年のゲストプロフェッサーのパリ第7大学のジャクリーヌ・ピジョー先生は年度の前半においてになり、9月に帰られましたので、現在日本にご滞在のインディアナ大学のジョーンズ先生に「戯作の作者、作者の戯作」という題でお話しいただくことになりました。

作家の秦恒平先生には「春琴と佐助」という題でお話をお願いすることにいたしました。私どものような機関では、なかなか作家の方をお呼びすることはできないのです。適任の方はおいでのなるんですけれども、何分にも私どもでは、そういう方々に普通に差し上げるようなお礼は出せないからでございます。今回は秦先生の格別なご好意によってお話しただけのことになりました。なお、これには長谷川泉委員長が秦先生とお知り合いでございまして、お口添えをいただいて実現した次第でございます。ジョーンズ先生、秦先生、それぞれおもしろいお話になることと楽しみにいたしております。また、今日と明日の午前中の研究発表も意欲的なものが並んでおりますので、実り多い研究会になることを期待しております。

なお、本館2階の展示室では、特別展示を行っております。今回は、ここ二年か三年の間に、当館で購入いたしましたものの中から選んで展示をしております。休憩時間などにご覧頂ければ幸いです。

例年ここへ立ちますと、本館の事業などについても申し上げているのですが、何度もお聞きになる方もいらっしゃることでございますし、このたび案内のパンフレットを作りましたのでそれをご覧になっていただくことにして、申し上

げるのを省くことにいたします。私どもが、この国際日本文学研究集会だけでなく、いろいろなことをしているということを、パンフレットでご承知いただければ幸いです。

これをもって、ごあいさつを終ることにいたします。

発行

平成2年3月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 785-7131 (代)

印刷所

睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区木場6-12-5

電話 (03) 649-6791 (代)